

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370900425		
法人名	社会福祉法人つくし会		
事業所名	認知症高齢者グループホームゆいとり		
所在地	岩手県一関市八幡町2番地14		
自己評価作成日	平成21年6月12日	評価結果市町村受理日	平成21年9月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0370900425&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号 岩手県福祉総合センター3F
訪問調査日	平成21年6月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>民家改修型の2階建ての古い民家で「普通の暮らし」を目指し、家族のように助け合っている。開所して8年目を迎え、平均介護度3.7と重度化しているが、できること・思いを大切に、健康・安全面には特に気をつけ、今まで骨折者は出ていない。毎月「寿司の日」「餅の日」「パンの日」を設け、食事に変化をつけたり、行事や外出の機会を多く持ち、家族と地域とのつながりを大切にしている。ほぼ全員が介護福祉士の資格を持ち、支援している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>(優れている点)● 運営推進会議に自発的につくられた家族会より交替で出席され、積極的な意見交換をされている。● 開設時からの全職員が、管理者の協力的なバックアップにより、介護福祉士の資格にチャレンジして、全員資格を取得し、業務にフルに活かしている。● 殆どの利用者が高齢で重度化しているが、昼夜全員オムツを使わないように職員の方が努力している。</p>
<p>(工夫点)● ホームの理念と4つのキーワードを利用者に毛筆で書いて頂き掲示し、常に目を通している。● 広報(ゆいとりだより)を発行する都度、「認知症の豆知識」のコーナーを設けて記載し、配布している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者主体の普通の暮らし」「その人らしい生活」「地域住民と共生」の3本柱を基に「笑」顔で「和」やかに「話」をたくさんして「輪」をつくらうをキーワードにより良いケアを目指している。ホーム内に4人の利用者が毛筆で書いた「笑」「和」「話」「輪」を掲示し、常に目にしている。	3本柱はグループホームの理念から作成されている。キーワードの「笑」「和」「話」「輪」は自分達で気づいたものであり、利用者が毛筆で書いている。ホーム長の細かい気配りによる優しい雰囲気漂っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の挨拶はもとより、おすそ分けのやりとりをしている。月1回の地域のゴミ拾い、年1回のお茶会へのお誘い、七夕飾りの出品など交流を図っている。利用者と一緒に回覧板を回したり近くのお店(豆腐店、陶器店)を利用してなじみになっている。	地域の自治会に加入し、「五民会だより」(区長作成の行政区だより)に記事を掲載してもらっている。「ゆいとりだより」も回覧している。近隣から、たくわん等の差し入れをもらったりしている。近所の茶道の先生が指導している。日常的な交流が感じられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度から広報誌に「認知症」についてのスペースを設けている。運営推進会議の場や、近隣の方から相談を受けることもある。看護学生、ヘルパー研修の実習を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、ボランティアの方にも出席して頂くこともある。行事、利用者の状況、職員の研修状況などの資料を作成し報告、意見交換をしている。特に地域の消防団の方が委員になってから災害についての理解が深まっている。	運営推進会議を2ヶ月に1回くらい開催している。昨年の災害時には見舞いに来てくれた。駅前の駐在所に、年に2回訪問してもらっている。委員に年1回グループホームの食事を食べてもらっている。サービス向上に十分に活かされているように感じられた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に介護保険担当の職員が毎回出席しており、その場での質疑応答もある。また、老人福祉係、生活保護係とは連絡を取り合ってサービスにつなげている。介護相談員は、利用者ともゆっくり交流している。	運営推進会議では、市の担当者と直接話をするように心がけており、市町村との連携が十分にとられている。食生活改善推進委員が年1回来て、食事を作ってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、施設内や母体の特養でも学習会をして理解している。玄関の施錠に関しては、外出行動のある利用者のため安全面を考え施錠し、縁側からの出入りを自由にし、家族も周知している。	1人だけいらっしゃる男性利用者は縁側に座って、おだやかに庭を見ていた。外出行動のある利用者のため安全面を考え玄関に施錠し、縁側からの出入りを自由にしてしている。家族も周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員学習会で毎年取り入れており、言葉遣いに関しては特に注意して接するようスタッフ間で話し合っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 認知症高齢者グループホームゆいとり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今迄制度の利用はないが、日常生活自立支援事業については、家族や法人内の事業者と一緒に学習会を行っている。今年は成年後見制度について学習会を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間をかけ十分に説明し、疑問な点には答えるようにしている。また後で疑問が生じた際も遠慮せず聞くように働きかけている。料金の改定等、重要事項の変更時には説明会を開催し、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの発案で家族会が発足しており、行事等で交流し、直接要望、意見を聞いたりアンケートをとっている。また、運営推進会議に交替で出席し意見を述べている。	連携をとるために家族会が発足し、家族会より1人づつ順番に運営推進会議に出てもらっている。現在、移転を考えているが、設計士が設計したグループホームを北上市和賀町までみんなで視察に行ったりして運営に反映させるよう努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、親睦会、日々の業務の中で話し合いを大切にしている。料金改定、勤務体制、引越しについても意見を聞き反映させている。	利用者のいるところで職員会議を開催しており、経営についても普段から職員と話し合いをしている。また研修会にも積極的に出席している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者の状態により、職員数や勤務体制を調整している。毎年昇給し、臨時、非常勤職員についてもボーナスの支給があり、やりがいにつながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が交代で施設内学習会を行っている。GH協会の定例会、研修会の他にも各種研修会に参加している。資格取得にも積極的に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国・県のGH協会に加入し、意見交換している。法人内のほかのGHと合同で行事、学習会を行っている。他施設見学では交流を図ると共に取り入れるもの、改善すべき事を見つけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に、自宅訪問や来所してもらい、本人とゆっくり話をするようにしている。利用当初の不安や帰宅願望と一緒に歩いたり、添い寝をしたり寄り添っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅訪問してゆっくり話を聞くと共に、来所してもらいゆいとりの建物や利用者の状態を理解してもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望、話をよく聞き支援している。地域にあるサービスについての紹介等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活しているという気持ちで掃除、食事の準備、片付け、洗濯干し、縫い物等全般にわたり出来ること得意なことをやって頂き、感謝を言葉で表し、「母の日」にはプレゼントしている。昔のことや歌を覚えてもらったり、励まされたり、褒められたり、来客時のもてなしに関しては教えられる事が多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と協力しての行事も多く、たくさんの家族に参加してもらい交流している。自宅訪問、家での誕生会、家族との外食、旅行なども実現している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの果物店、そば屋さんの利用、自宅近くの家の訪問、手紙のやりとり等支援している。また、利用していた床屋さんが閉店しても継続して利用できるようにゆいとりに来て頂いている。	慣れている床屋さんにやってもらい喜んでる。外出時は慣れた人が付き添い、親しい人や場との関係を継続するように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の良い人を把握し、座る場所に気をつけている。一緒に入浴し着衣を直してあげたりしている。同じ部屋で休んでいる人達は、お互い声を掛け合い、起床、更衣、布団の上げ下ろしを助け合っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 認知症高齢者グループホームゆいとり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退所後も面会に行ったり家族が相談に来ることもある。申請書類の支援をしたこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式「C-1-2私の姿と気持ちシート」の活用が定着しており、個別ケアが多くなっている。日常の会話や表情、家族からの情報を記録に残し、スタッフ間で共有してケアにつなげている。	介護員が本人の気持ちになって絵を描いて個々の気持ちに添えるようにやっている。ケアプランは、各自一冊にケアチェック表、介護サービス計画実施・評価施設サービス計画書、C-1-1心身の情報、C-1-2、D-1Eが記録されており、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時は家族からだけでなく、ケアマネや利用していた事業所より情報を得ている。家族にもセンター方式「私の生活史シート」の記入をお願いしている。また、面会にいらした方(親戚、友人等)からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、水分摂取、排泄状況や過ごし方等をこまめに記録し、異常時は早めに受診している。入所時は特に丁寧な記録を心がけ、スタッフ間で把握に努めている。年々変化する状態についてもセンター方式「私ができること、できないこと」を活用し、働きかけを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人・家族の希望をもとに、全員参加で話し合っている。毎月モニタリング、3ヶ月に1回見直しのカンファレンスを行なっている。現状に合わないプランは、その都度修正し、ケアの基になっている。家族、主治医、管理栄養士と話し合い、介護計画を作成したものもある。	3ヶ月に一度は見直しのカンファレンスを行っている。介護計画を作成する前に家族と十分に話し合うようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の言葉や表情はこまめに記録している。ケアの実践については、ケアチェック表を作成し毎日振り返っている。その際の気づき、工夫は連絡ノートを利用し、スタッフ間で共有できるようにしている。また、カンファレンスでも話し合い、プランの見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と一緒に長年望んでいた仙台までの外出、花巻の一泊旅行等、希望により支援している。また、誕生会をご家族の家で行ったり、他の利用者も一緒に自宅でのお茶飲みや、家族希望で個別にヨーグルトジョアを飲む支援をしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 認知症高齢者グループホームゆいとり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの歯医者、病院、商店(豆腐屋、果物店、陶器店)を利用し、なじみの関係を築いている。無断外出時教えてもらったり、近隣の方から相談を受けることもある。月1回地域の方がボランティアに来て、歌やゲームを楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの病院に継続して通院している。必要時、家族と共に状態を医師に伝えている。家族による受診が困難な方には職員が支援し、報告している。主治医の助言により、家族と相談し新たに内科を受診したり、主治医が変更になった利用者もいる。	通院時、家族が付き添いをしていたが、都合によりほとんど職員が付き添っている。受診結果は、その都度家族に報告している。秋保クリニックには精神科があり、適切な医療を受けられるような体制になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であるため、報告、連絡、相談がしやすい環境にある。看護師が休みの時でも連絡し、早期に対応できる体制にある。日誌、連絡帳を利用し、状態の変化を把握できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診時は、毎日のバイタルチェック表、健康診断の結果を持参し、日々の様子を伝えている。入院時は、こまめに会いに行き、病院関係者と情報交換をしたり、家族と一緒に医師と話し合い、予定より早く退院できたこともある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在「要介護5」が2名おり、平均介護度3.7と重度化している。特養の申込をしたものの、ゆいとりでの生活を希望され、継続できるよう話し合いを重ね支援している。終末期にむけてもアンケートをとったり、面会時、行事等色々な機会を利用し話題にしている。	段差があり車椅子を使えないので、重度化すると特養ホームに行かざるを得ないが、話をしてもここにいたいとのことである。看取りは無かった。在宅への往診も行っている医師にかかっているが、利用者が、お元気であることから、通院で対応している。終末期についてもアンケートをとったり、機会をみても話題にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内学習会、母体の特養ホームやGH協会の研修会に参加し、学習している。救急車の呼び方も電話の近くに設置し、対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者が計画し、主に夜間想定避難訓練を月1回行い、気づき、反省点を次の訓練につなげている。消化訓練も母体の特養で消防署の指導で実際に体験している。地域の消防団の火防点検をうけ、昨年の地震では訪問を受けている。運営推進会議でも避難訓練の状況を話し、協力を依頼している。	夜間想定避難訓練を月1回行っている。出入り口は玄関、縁側、裏口の3ヶ所があり、一生懸命訓練を行っている。地震のときは玄関の柱につかまるように話し、防災頭巾も作り備えている。	地震等に備え、更に消防署員立会い避難訓練を行っていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った言葉かけをするように気をつけ、特に排泄については誘導の声掛けの工夫をしている。長期利用者が多いので馴れ合いにならないよう、言葉使いについて話し合いをもち、気をつけている。	言葉使いについては馴れ合いにならないように気をつけているのを感じた。トイレに行くときの言葉かけについては十分に気をつけていた。家族的な雰囲気十分に感じられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で選んだり、決める機会を多く作っている。外出、散歩、行事等の参加、不参加の決定、買い物の品物選びや個別外食でのお店料理を選ぶ支援をしている。頭の体操のカードを利用し、好みを引き出す工夫をしたり、表情や行動から、その人の思いを感じ理解するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	調理、縫物、歌が得意な方には其々活躍の場を設け、外出が好きな方は毎日のように散歩や買い物に行っている。外食を好む方は個別に支援している。また、俳句、短歌に興味のある方は本・テレビを活用見せてもらっている。自宅に利用者数名と一緒にいき、家族と過ごしてくる方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に床屋に来てもらい、散髪してもらっている。重ね着やちぐはぐな着方をする方に声掛けを工夫し、身だしなみを整えてもらっている。一人で着衣出着ない方は、好みの色や素材に気をつけ、似合う服を着て頂いている。個別に好みの化粧品、シャンプー等を支援している。敬老会、行事の時は一緒に服を選んだり、着物、化粧を援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日のメニューは本人と相談して決め家族とお祝いしている。日常的に野菜を切ったり盛り付けや片づけを一緒に行っている。普段台所仕事をあまり手伝わない方も、フキの皮むきやワラビのホダとりを行い、調理法を聞いたり食事の時話題にしている。旬の食材を食べるようにし、食事に変化をもたせるため寿司の日、もちの日、パンの日を決め楽しんでいる。	食事の準備・後片付けを一緒に行っている。寿司の日1日、餅の日15日、パンの日10日と20日(あんぱんが好き)のように食事に変化を加えて楽しみを作っている。食事の役割分担も自然に行われ、家族的な雰囲気が感じられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一食10品目以上の食材を使い、バランスに気をつけている。定期的に管理栄養士にメニューを見てもらい、アドバイスをもらっている。水分摂取は特に気をつけ麦茶、スポーツ飲料、コーヒー等好みに摂ってもらっている。栄養士と相談し、個々に応じた補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方には、声掛けや準備をし、口腔のケアが難しい方にはお茶を飲んでもらって支援している。医師の指導で歯ミガキ口腔のマッサージを行っている方もいる。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 認知症高齢者グループホームゆいとり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし支援している。排泄表を作成し、一人ひとりのパターンを把握してトイレに誘導、排泄を促している。夜間も声がけし、起きてもらっている。	排便と排尿を分けてチェックしている(「水分・排泄表」)。夜間も歩ける人はトイレに行ってもら(夜勤専門の介護福祉士の女性は2人いる)。昼間の紙オムツ使用者はなしで夜間は1人いる。職員の努力が十分に感じられた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食にバナナ、プルーン入りヨーグルトを提供し便秘予防に努めている。また食後のトイレの声がけ、トイレ誘導時の腹部マッサージ、10時、3時の体操など行っている。また、プルーン、はちみつで排便を促したり処方されている整腸剤の調節を支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	光熱費の高騰で1日おきの入浴となっているが、入浴のない日は足浴をしている。入浴後はそれぞれ好みの化粧品を使い楽しんでいる。	入浴は1日おきとなっている。脱いだり、着たりすべてに支援が必要である。家庭的な風呂場で努力が感じられた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢で足にむくみのある方は、足を挙上し休んで頂いている。お昼寝の習慣がない方は職員が側に居てゆっくり過ごしてもらっている。夜間は徘徊する方もなく眠っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用薬品の一覧表を作成し、事務所と台所におき、すぐわかるようにしている。1日分の薬を利用者毎に袋に入れ、確実に服薬するように支援している。状態変化時は早めに受診して薬を調節してもらっている。薬が変わった時は連絡帳・日誌で申し送りを確実にし、特に気をつけて観察を行い、医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族参加の行事を多く行い、一緒に楽しんでいる。誕生日には家族も一緒にお祝いしている。また月1回の大正琴と歌の会、お茶会は楽しみの1つになっている。日常的に得意なこと(縫物等)を手伝ってもらい、感謝の言葉を言っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日のように近隣の散歩は行っており、車いすを利用者が押して歩くことも多い。仙台に行きたいと言っていた利用者が家族と相談し、実現した例もある。また外泊が難しくなった方も孫の結婚式で花巻に外泊したり、家族との買物、外食、初詣等支援している。	近隣の散歩は毎日実行している。外泊した方の写真も見せていただいたが、うれしそうな笑顔から満足感が感じられた。1人いらっしやる男性利用者には車いすを押してもらうなど、役割分担も考えている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 認知症高齢者グループホームゆいとり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持し、管理することは難しく、施設で預っている。お金の心配する方には、預り金を見て頂き安心してもらっている。買物や外食時、本人の財布を持ち支払を促すが、難しい状態である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	小包が届いた時は、電話や礼状の支援をしている。また、字が書ける利用者はケアプランにも取り入れ、定期的にハガキや手紙を書き、娘や姪とやり取りをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に設置しているテーブルは、冬にはコタツになり利用者の落ち着く場所になっている。異食があるため、日常的に花は置けないが、場所を工夫して楽しんでいる。手作りのカレンダーやふれあい書道展に出品した作品を飾ったり、季節の行事のタペストリー、水木団子、お月見、七夕飾りなどで季節を感じている。庭にはプランターを置き、花、野菜を植え、水やり、収穫を支援している。	趣のある2階建て和風民家を借用しているが、落ち着いた雰囲気や醸(かほ)し出している。手作りカレンダーやふれあい書道展へ出品した作品を飾り、庭には茄子、南瓜、三つ葉、トマトをプランターに植えている。離れたところに畑を無償で借入している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビが2ヶ所にあり、其々気の合う利用者と好きな番組を見たりして過ごしている。縁側、2階、庭にも椅子を置き、外を眺め季節を感じている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物が古く、障子、襖のしきりはなじみやすい環境となっている。また、顔なじみの利用者同士で休むことは安心感につながっている。位牌を持って来ている方もいる。	建物が古く段差もあるが、手すりをつける工夫をしたりして、上手に対応している。開所以来3人で同室に寝ている人もいるが、安心感につながっていると感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差が多いが、必要な所に手すりをつけ、気をつけて移動し、今まで骨折者は出ていない。お風呂場での事故防止のため、すべりマット、肘掛け付きシャワーチェア、手すりを設置している。身体機能が低下した方の2階への移動は昇降機を利用し、行事への参加を可能にしている。		